

独立行政法人文化財研究所の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価

◎全体評価

① 中期目標期間を通じて得られた法人の今後の課題

- (イ) 文化財に関する基礎的調査研究をはじめ文化財研究所の活動は、地味ではあるが継続的かつ着実に広い分野で質の高い成果を挙げており、国内外への貢献は高く評価できる。
 - (ロ) しかしながら、研究成果の普及については、分野によりバラツキが感じられることから、今後、広い分野における研究成果の更なる普及活動を期待する。
 - (ハ) 研究成果が広く周知されることにより、文化財の価値や意義についての国民に対する啓蒙につながることを期待する。
- (二) 一方、近代化遺産など文化財の保護対象範囲の拡大、高松塚古墳やキトラ古墳の保存など緊急的な課題、国際協力・支援活動については、今後、研究所の活動に対する期待がより一層高まるものと思われる。これまでの質の高い実績を維持しつつ、更なる取組を行うためには、人的・予算的拡充を期待する。

② 法人経営に関する意見

- (イ) 運営費交付金を充当して行う業務の効率化は、東京・奈良の両研究所における共通業務の見直しや組織改革等により、中期目標期間を通じ着実に進められたことは高く評価できる。(項目別評価 p1参照)
- (ロ) 独立行政法人化、さらには、平成18年4月からの非公務員化による柔軟な人事制度を活用し、大学や他の研究機関等との人事交流や、非常勤研究員の活用等による臨機応変な人事運営を期待する。また、新しい課題に即した適材適所の人材を発掘し活用することによる、我が国の文化財分野における人材育成が期待される。

③ 特記事項

- (イ) 19年4月の国立博物館との統合においては、これまで文化財研究所が築いてきた文化財に関する幅広い分野における基礎的・先進的な調査・研究の位置づけを確たるものとする必要がある。
- (ロ) また、文化財研究所の調査研究の成果が博物館事業へも有効に活用され、新法人全体の調査研究機能が向上することを期待する。

独立行政法人文化財研究所の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

中期目標の項目名	評価	中期計画の項目名	評価	中期目標期間中の評価の経年変化				
				13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
<p>○業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>職員の意識改革を図るとともに、事務、事業、組織等を見直し、外部委託の推進等により、経費の合理化を図ること。具体的には、運営費交付金を充当して行う業務については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p>	A	<p>国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。</p>	A	A	A	A	A	A
		1 国際協力、国際共同研究について「国際文化財保存修復協力センター」への一元化による業務の効率化	A	A	A	A	A	A
		2 両文化財研究所の共通業務の効率化	A	A	A	A	A	A
		3 両文化財研究所の組織の見直しによる経費の削減	A	A	A	A	A	A
		4 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進	A	A	A	A	A	A
		5 セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進	A	A	B	A	A	A
		6 連絡システムの構築等による事務の効率化	A	A	A	A	A	A
		7 業務の外部委託、事務のOA化の推進等による効率的な事務の執行	A	A	A	A	A	A
		8 法人の自己点検評価のあり方について検討し、適切な自己点検評価を実施するとともに、今後の法人運営の改善に反映させる。	A	A	A	A	A	A

独立行政法人文化財研究所の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

中期目標の項目名	評価	中期計画の項目名	評価	中期目標期間中の評価の経年変化				
				13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
○国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 文化財に関する調査・研究 我が国における文化財及びその関連資料は膨大であり、その調査・研究と実態の解明には多大の時間を必要とするが、緊急度や重要性等を勘案し、主として下記の事項について計画的に調査・研究を進めること。その際、最終的な結論を導き出すために長期にわたる調査・研究の蓄積が必要な場合は、一定の期間で客観的事実や中間的な成果を得られるよう課題を設定し、その成果を適時適切に国民に公表すること。	A		A	A	A	A	A	A
(1)文化財に関する基礎的な調査・研究の推進 以下の課題に取り組み、文化財に関する基礎的な調査・研究の推進を図ること。	A		A	A	A	A	A	A
① 美術、演劇、音楽、民俗芸能等の文化財の伝播、継承及び発展の解明を進め、特に、大正期及び昭和前期の美術展覧会に出品された作品とその作家の美術史的な評価を行い、成果として総合的な目録を完成すること。	A	1 文化財に関する調査・研究 (1)-①-ア 東アジアの美術の交流	A	A	A	A	A	A
		(1)-①-イ 近代美術の発達	A	A	A	A	A	A
		(1)-①-ウ 伝統芸能の調査・外国比較	A	A	A	A	A	A
		(1)-①-エ 伝統楽器の変遷	A	A	A	A	A	A
		(1)-①-オ 民俗芸能の上演目的	A	B	A	A	A	A
② 平城宮跡、飛鳥・藤原官跡の発掘調査等により、古代都城や国家の形成過程、当時の生活環境等の実態の解明を進め、本期間中に13カ所程度の発掘調査を行い、研究成果を得るよう努めること。	A	(1)-②-ア 平城宮、飛鳥・藤原宮の発掘	A	A	A	A	A	A
		(1)-②-イ 平城宮、藤原宮の関連遺跡の発掘	A	A	A	A	A	A
		(1)-②-ウ 出土遺物・遺構の調査等	A	A	A	A	A	A
		(1)-②-エ 建造物の保存修復の基礎研究	A	A	A	A	A	A
		(1)-②-オ 大極殿復原の実践的研究	A	A	A	A	A	A
		(1)-②-カ 古代庭園の研究	A	A	A	A	A	A
		(1)-②-キ 飛鳥の歴史研究、展示活用	A	A	A	A	A	A

独立行政法人文化財研究所の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

中期目標の項目名	評価	中期計画の項目名	評価	中期目標期間中の評価の経年変化				
				13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
③ 寺院等が所蔵する歴史資料、書跡資料等の調査・記録・分析により、日本の歴史・文化の源流の解明を進め、本期間中に5力所程度の調査・研究を行い、成果を得るよう努めること。	A	(1)－③ 古社寺資料の原本調査	A	A	A	A	A	A
(2)文化財の調査、保存、修復、整備活用に関する実践的な調査、研究の推進以下の課題に取り組み、文化財に関する基礎的な調査・研究を基に、文化財の調査・保存・修復・整備・活用に関する実践的な調査・研究を進め、その成果を文化財施策の向上に資するよう提供すること。	A		A	A	A	A	A	A
① 文化財の材料や技術的構造を明らかにし、それら文化財を生み出した文化的・歴史的背景の解明を進め、発掘調査の迅速化や美術品、出土品に関する科学的調査の発展を図ること。特に、遺構の科学分析等による遺跡調査法、年輪から年代や当時の気象を分析する年輪年代測定法及び動植物遺存体を用いた環境分析法を開発すること。	A	(2)－①－ア 発掘手法、技術の開発	A	A	A	A	A	A
		(2)－①－イ 年輪年代測定法	A	A	A	A	A	
		(2)－①－ウ 環境分析法	A	A	A	A	A	
		(2)－①－エ 考古科学の総合的研究	A	A	A	/	/	/
② 科学的手法を用いた新たな保存修復技術・方法の開発を進め、特に、文化財の彩色材料の非破壊測定法、臭化メチル全廃に対応するための文化財の生物劣化防除法、屋外文化財(臼杵磨崖仏・厳島神社)に対し環境が及ぼす影響とその技術的対策、大型木製品の保存処理法、有機質遺物の保存処理法及び無機質遺物の非破壊構造調査法を開発すること。	A	(2)－②－ア 彩色材料の非破壊測定法	A	A	A	A	A	A
		(2)－②－イ 臭化メチル燻蒸代替法	A	A	A	A	A	
		(2)－②－ウ 文化財施設の保存環境、周辺環境	A	A	A	A	A	
		(2)－②－エ 大型木製品の劣化等	A	A	A	A	A	
		(2)－②－オ 古糊などの伝統的修復材料等	A	A	A	A	A	
		(2)－②－カ 古代遺跡の保存修復	A	A	A	A	A	
		(2)－②－キ 近代の文化遺産の保存修復	A	A	A	A	A	
③ 国民に親しまれる遺跡の公開・展示の在り方と保存方法の開発を進めること。特に、遺跡の露出展示法を開発すること。	A	(2)－③－ア 平城宮整備、全国大規模遺跡	A	A	A	A	A	A
		(2)－③－イ 遺跡の露出展示法	A	A	A	A	A	

独立行政法人文化財研究所の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

中期目標の項目名	評価	中期計画の項目名	評価	中期目標期間中の評価の経年変化				
				13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
(3)文化財に係る調査・研究に関する国際交流・協力等の推進 文化財の調査・保存・修復に関する国際機関、諸外国との調査・研究協力、情報交換、専門家の養成支援等を積極的に実施することにより、文化財に関する国際交流を推進すること。また、外国の文化財保存修復に関する技術的指導・援助等を行うことにより、文化財に関する国際貢献・協力を推進すること。 さらに、大学、研究機関等関係機関との共同調査・研究、研究者交流等を積極的に推進し、調査・研究の質の向上を図ること。	A	(3)-①-ア 諸外国の文化財保護制度	A	A	A	A	A	A
		(3)-①-イ 東南アジアの文化財	A	A	A	A	A	A
		(3)-①-ウ 中国、中南米諸国の文化財	A	A	A	A	A	A
		(3)-①-エ 文化財の防災計画	A	/	/	A	A	A
		(3)-①-オ 在外日本古美術品修復	A	A	A	A	A	A
		(3)-①-カ 環境による不動産文化財の劣化	A	A	A	A	A	A
		(3)-①-キ アジア古代都城遺跡ほか	A	A	A	A	A	A
		(3)-②-ア イクロム国際研修	A	A	A	A	A	A
		(3)-②-イ 保存修復国際シンポジウム	A	A	A	A	A	A
		(3)-②-ウ アジア文化財保存セミナー	A	A	A	A	A	A
		(3)-②-エ 国際文化財保存修復研究会	A	A	A	A	A	A
		(3)-②-オ JICA等の研修協力	A	A	A	A	A	A
		(3)-③ 職員の海外派遣協力	A	A	A	A	A	A
		(3)-④ 国内共同研究	A	A	A	A	A	A
		(3)-⑤ 外部依頼の実践的研究(受託研究)	A	A	A	A	A	A
(3)-⑥ 地方との共同発掘調査	/	/	/	/	/	/		
2 調査・研究に基づく資料の作成・公表 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、速やかに報告書等を作成し、適切な時期・方法により積極的に公表すること。その際、文化財研究者等だけでなく、多くの国民が容易に研究成果を入手できるよう、情報通信技術の活用や再現模型・複製品の作成等多様な手法を用いて、資料の作成・公表を推進すること。なお、刊行物等の発行及び黒田記念館、飛鳥資料館、平城官跡資料館、飛鳥藤原宮跡発掘調査部展示室の入館者数は、毎年度平均で平成12年度の実	A	2 調査・研究に基づく資料の作成・公表	A	A	A	A	A	A
		①-ア 研究報告書、年報等の刊行	A	/	A	/	/	/
		①-イ 奈文研創立50周年記念事業	A	/	A	/	/	/
		①-ウ 公開学術講座等 公開学術講座開催状況	A	B	A	A	A	A
		公開講演会開催状況	A	B	A	A	A	A

独立行政法人文化財研究所の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

中期目標の項目名	評価	中期計画の項目名	評価	中期目標期間中の評価の経年変化				
				13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
績以上を確保するよう努めること。		現地説明会開催状況	A	A	A	A	A	A
		①-エ データベース公開	A	B	A	A	A	A
		①-オ 展示・公開事業(黒田記念館、飛鳥資料館、平城宮跡資料館、飛鳥藤原宮跡発掘調査部資料室) 黒田記念館展示・公開充実状況	A	B	A	A	A	A
		飛鳥記念館展示・公開充実状況	B	B	B	B	B	B
		平城宮跡資料館展示・公開充実状況	A	A	B	A	A	B
		飛鳥藤原宮跡発掘調査部展示室展示・公開充実状況	A	A	A	A	A	A
		①-カ アンケート調査	A	A	A	A	A	A
		②-ア 民俗芸能研究協議会	A	B	A	A	A	A
		②-イ 文化財保存修復研究協議会	A	A	A	A	A	A
		②-ウ 近代の文化遺産保存研究会	A	A	A	A	A	B
		②-エ 保存科学研究集会	A	A	A	A	A	A
		②-オ 在外日本古美術品修復技術研究会	A	A	A	A	A	A
		3 文化財に関する情報・資料の収集・整理・提供 文化財に関する情報・資料を計画的に収集・整理し、積極的に公開・提供すること。その際、多くの国民が文化財に関する情報・資料に容易に接することができるよう、情報通信技術を活用して情報提供を行うなど、多様な手法を用いて、情報・資料の収集・整理・提供を推進すること。なお、情報・資料の収集及びホームページのアクセス件数は毎年度平均で平成12年度の実績以上を達成すること。	A	3 文化財に関する情報・資料の収集・整理・提供 ①-ア 資料・図書の収集等	A	A	A	A
①-イ 資料データベースの作成	A			A	A	A	A	A
② 文化財情報の電子化	A			A	A	A	A	A

独立行政法人文化財研究所の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

中期目標の項目名	評定	中期計画の項目名	評定	中期目標期間中の評価の経年変化				
				13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
4 文化財に関する研修等 文化財の保存・活用を推進し、国民に対するサービスの向上を図るため、地方公共団体、博物館、美術館等関係機関の職員の資質向上を目的とする研修等を計画的に実施すること。なお、文化財研究所が主催する研修事業に参加した者のうち、平均80%以上の者から「有意義だった」、「役に立った」と回答してもらえるよう研修内容の充実を図ること。 また、連携大学院制度により大学院生を積極的に受入れるなど、文化財の保存・活用を支える人材の養成・確保に努めること。	A	4 文化財に関する研修等 ①-ア 埋蔵文化財発掘技術者研修	A	A	A	A	A	A
		①-イ 保存担当学芸員研修	A	A	A	A	A	A
		②-ア 連携大学院教育	A	A	A	A	A	A
		②-イ 博物館学実習	A	A	A	B	A	A
5 文化財の調査・保存・修復・整備・活用に関する援助・助言 調査・研究の成果を活用し、国・地方公共団体等に対して、文化財の調査・保存・修復・整備・活用に関する専門的・技術的な援助・助言を積極的に実施することにより文化財保護の質の向上を図ること。	A	5 文化財の調査・保存・修復・整備・活用に関する援助・助言 ①平城宮跡整備等への援助助言	A	A	A	A	A	A
		②地方公共団体等への助言	A	A	A	A	A	A
		③文化財収蔵公開施設等への援助助言	A	A	A	A	A	A
6 前各項の業務に附帯する業務 (1)国の文化財に関する公開・活用事業を促進するため、文化財研究所の業務に密接な関係を有する遺跡地の公開・活用に協力・支援すること。	A	6 前各項の業務に附帯する業務 (1)平城宮跡等の公開活用協力	A	A	A	A	A	A
		(2)平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡等の解説、環境保全等を行うボランティア活動を積極的に支援し、ボランティアの文化財に対する学習需要にも適切に対応するとともに、毎年度平均で平成12年度実績以上のボランティアの確保を図り、来訪者に対するサービスを充実すること。	A	(2)-① 解説ボランティア運営	A	A	A	A
(2)-② 各種ボランティアの活動協力	A	A		A	A	A	A	
(2)-③ ミュージアムショップの運営委託	A	A		A	A	A	A	
(2)-④ 平城宮跡等来訪者の満足度調査	A	A		A	A	A	A	

独立行政法人文化財研究所の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

中期目標の項目名	評価	中期計画の項目名	評価	中期目標期間中の評価の経年変化				
				13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
IV 財務内容の改善に関する事項 自己収入の確保、予算の効率的な執行に努め、適切な財務内容の実現を図ること。 (1) 積極的に外部研究資金、施設使用料等、自己収入の増加に努めること。また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。 (2) 固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。	A	収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。 (1) 予算(中期計画の予算) (2) 収支計画 (3) 資金計画	A	A	A	A	A	A
		短期借入金の限度額は、6億円。短期借入が想定される理由は、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。						
		決算において剰余金が発生した場合は、調査・研究、出版事業及び国民に対するサービスの向上に必要な展示施設・設備の整備等に充てる。	A		A	A	A	A
V その他業務運営に関する重要事項 1 人事管理(定員管理、給与管理、意識改革等)、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図ること。	A	1 人事に関する計画 (1) 方針 ① 職員の適正な配置と計画的な人事交流の推進 ② 職務能率の維持・増進 ア 福利厚生 の充実 イ 職員の能力開発等の推進 (2) 人員に係る指標	A	A	A	A	A	A
		2 長期的な展望のもとに施設・設備整備計画を作成し、整備を推進すること。	A	A	A	A	A	A

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
収入						支出					
運営費交付金収益	3,182	3,091	2,982	3,111	2,946	業務費	2,765	2,995	2,796	2,843	2,992
業務収益	18	23	20	16	21	一般管理費	870	790	759	722	692
受託収入	129	218	188	257	475	財務費用	0	0	0	0	0
財産賃貸収益	2	3	2	2	2	雑損	-	-	0	0	0
寄付金収益	2	11	8	8	18						
資産見返負債戻入	400	423	273	208	164						
財務収益	0	0	0	0	0						
雑益	132	39	23	27	30						
計	3,865	3,808	3,496	3,629	3,656	計	3,635	3,785	3,555	3,565	3,684

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
費用						収益					
経常費用						経常収益					
業務費						運営費交付金収益	3,182	3,091	2,982	3,111	2,946
人件費	1,516	1,556	1,458	1,435	1,413	業務収益	18	23	20	16	21
調査研究事業費	288	337	369	392	402	国からの受託業務収入	97	143	112	166	379
展示出版事業費	109	113	98	87	94	その他の受託業務収入	32	75	77	90	96
情報公開事業費	104	134	155	160	142	財産賃貸収益	2	3	2	2	2
研修事業費	21	24	19	22	18	寄付金収入	2	11	8	8	18
国際研究協力事業費	200	195	227	286	280	資産見返運営費交付金戻入	6	21	43	53	66
平城宮跡等公開支援事業費	48	38	42	41	49	資産見返寄付金戻入	0	8	13	20	24
附帯業務費	3	3	2	2	3	資産見返物品受贈額戻入	394	394	217	135	74
受託業務費	107	205	185	245	459	受取利息	0	0	0	0	0
減価償却費	369	390	240	173	132	物品受贈益	116	13	-	-	-
一般管理費						雑収入	16	26	22	27	30
人件費	273	280	296	280	291	臨時利益	-	33	-	2	-
管理経費	566	477	428	406	363						
減価償却費	31	33	35	36	38						
財務費用	0	0	0	0	0						
雑損	-	-	0	0	0						
臨時損失	-	35	1	-	2						
計	3,635	3,820	3,555	3,565	3,686	計	3,865	3,841	3,496	3,630	3,656
						純利益	230	21	-59	65	-30
						目的積立金取崩額		31	28	21	13
						総利益	230	52	-31	86	17

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出						業務活動による収入					
人件費支出	1,680	1,793	1,839	1,637	1,734	運営費交付金収入	3,333	3,254	3,086	3,216	3,046
業務費支出	627	960	1,259	1,195	1,370	寄付金収入	5	10	11	17	7
一般管理費支出	391	396	442	421	297	入場料収入	26	22	22	16	20
科学研究費等支出	175	235	219	214	190	財産利用収入	2	3	2	2	2
消費税等の支払額	-	-	7	2	12	受託収入	48	277	189	133	233
財務費用	0	0	0	0	0	科学研究費等収入	175	235	219	214	191
投資活動による支出						財務収入	0	0	0	0	0
有形固定資産の取得による支出	157	213	164	116	80	雑益	16	25	22	27	30
無形固定資産の取得による支出	0	-	-	2	2	その他の収入	-	-	-	-	-
預託金の支払による支出	1	0	0	-	1	投資活動による収入					
財務活動による支出						有形固定資産の売却による収入	-	-	-	3	-
リース債務の返済による支出	0	0	1	1	4	財務活動による収入					
						消費税等の還付額	-	565	-	-	-
翌年度への繰越金	574	1,362	984	1,024	866	前年度よりの繰越金	-	574	1,362	984	1,024
計	3,031	3,597	3,931	3,588	3,690	計	3,605	4,391	3,551	3,628	3,529

【参考資料2】貸借対照表の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
資産						負債					
流動資産	1,241	1,409	1,043	1,205	1,298	流動負債	436	628	381	495	658
固定資産	19,881	19,322	18,816	18,322	17,914	固定負債	1,106	874	726	644	608
						負債合計	1,542	1,502	1,107	1,139	1,266
						資本					
						資本金	17,167	17,167	17,167	17,167	17,167
						資本剰余金	2,184	1,859	1,499	1,070	658
						利益剰余金	230	203	86	151	121
						(うち当期未処分利益)	(230)	(53)	(-31)	(86)	(0)
						資本合計	19,581	19,229	18,752	18,388	17,946
資産合計	21,122	20,731	19,859	19,527	19,212	負債資本合計	21,123	20,731	19,859	19,527	19,212

独立行政法人文化財研究所の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価

◎ 項目別評価

中期目標の項目毎に段階的評価を行う。

○段階的評価

「A」：中期目標を達成した。

「B」：中期目標を概ね達成した。

「C」：中期目標は十分に達成されなかった。

○定性的評価

評定を出すに至って背景や理由、改善すべき項目、目標設定の妥当性を記述する。

なお、特に優れた実績を上げた場合は、A^{*}の評価を行うことができるものとする。

○業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期目標	中期目標 段階的評定	中期計画	指標又は評価項目	評価基準			事業年度段階的評価結果					中期計画 段階的評定	中期目標評定 定性的評価			
				A	B	C	13	14	15	16	17					
II 業務運営の効率化に関する事項 職員の意識改革を図るとともに、事務、事業、組織等の見直し、外部委託の推進等により、経費の合理化を図ること。具体的には、運営費交付金を充当して行う業務については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務 分等を除き1%の業務の効率化を図る。 具体的には、下記の措置を講ずる。	A	国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務 分等を除き1%の業務の効率化を図る。 具体的には、下記の措置を講ずる。	・業務の効率化状況				A	A	A	A	A	A	運営費交付金を充当して行う業務の効率化は、平成13年度に2.92%、14年度に3.07%、15年度に2.90%、16年度に1.63%、そして、今年度1.96%を達成したことは高く評価できる。			
			・経費の削減率	1.5%以上	1.5%未満 1.0%以上	1.0%未満	A	A	A	A	A					
			1 国際協力、国際共同研究について「国際文化財保存修復協力センター」への一元化による業務の効率化	・組織の一元化の状況 ・業務の効率化状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A			A	A	東京、奈良の両研究所が連携協力し、一元化による成果は挙げられたと評価する。
			2 両文化財研究所の共通業務の効率化	・共通業務の効率化状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A			A	A	「事務部課長連絡会」や「事務担当者連絡会」において、業務の見直しや人事・給与事務の効率化を検討した等の努力に評価する。
			3 両文化財研究所の組織の見直しによる経費の削減	・組織の見直し状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A			A	A	組織の抜本的な改革について検討されたことを高く評価する。
4 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進	・省エネルギー推進状況 ・廃棄物減量化推進状況 ・リサイクル推進状況 ・ペーパーレス化推進状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	A	A	A	省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、及びペーパーレス化の推進を図るため、日常の節電節水等を周知徹底することはもとより、夏季におけるノーネクタイ等軽装の励行、冷暖房の省エネ運転等を行った。また、複写機の利用節約のため部局別にカウンターカードを使用し予算差引を行うとともに、コピー用紙は再生紙の使用、古紙				

○ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期目標	中期目標 段階的評定	中期計画	指標又は評価項目	評価基準			事業年度段階的評価結果					中期計画 段階的評定	中期目標評定 定性的評価	
				A	B	C	13	14	15	16	17			
Ⅲ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 文化財に関する調査・研究 我が国における文化財及びその関連資料は膨大であり、その調査・研究と実態の解明には多大の時間を必要とするが、緊急度や重要性等を勘案し、主として下記の事項について計画的に調査・研究を進めること。その際、最終的な結論を導き出すために長期にわたる調査・研究の蓄積が必要な場合は、一定の期間で客観的事実や中間的な成果が得られるよう課題を設定し、その成果を適時適切に国民に公表すること。	A	1 文化財に関する調査・研究					A	A	A	A	A	A		
(1) 文化財に関する基礎的な調査・研究の推進 以下の課題に取り組み、文化財に関する基礎的な調査・研究の推進を図ること。	A						A	A	A	A	A	A		
① 美術、演劇、音楽、民俗芸能等の文化財の伝播、継承及び発展の解明を進め、特に、大正期及び昭和前期の美術展覧会に出品された作品とその作家の美術史的な評価を行い、成果として総合的な目録を完成すること。	A	1-(1)-① ア 東アジア地域における美術交流の歴史や日本美術に及ぼした影響について解明するため、美術に関する資料を収集し、分析、研究を行い、得られた成果を報告書として刊行する。	・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	A	A	アジアにおける美術交流や日本への影響についてさまざまな分野において、継続的に活発に実証的な調査・研究が進められており評価できる。	
			・学術雑誌等への掲載論文等数	2件以上	1件	0件	A	A	A	A	A	A		
			・学会、研究会等での発表件数	10件以上	10件未満 8件以上	8件未満	A	A	A	A	A	A		
		イ 我が国の近代美術の発達に関して、時代ごとに調査・研究を進めるとともに黒田清輝に関する研究を進める。資料収集、分析、研究を通じて得られた成果を「大正期美術展覧会出品目録」、「昭和前期美術資料集成」（仮称）、「黒田清輝油彩画総目録」等の目録として刊行する。	・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	A	A	A	継続的に、活発な調査、研究、出版活動が行われ、刊行された目録の内容は充実しており、評価できる。特に、「大正期美術展覧会出品目録」や「昭和前期美術資料集」の編纂は、研究所の仕事として大きく評価できる。
			・学術雑誌等への掲載論文等数	3件以上	3件未満 2件以上	2件未満	A	A	A	A	A	A	A	
	・学会、研究会等での発表件数	2件以上	1件	0件	A	A	A	A	A	A	A			
ウ 伝統芸能に関する調査及び外国との比較研究のため、現地調査及び記録作成、分析を行い、得られた成果を報告書として刊行する。			・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	A	歌舞伎、能などの伝統芸能に関する基礎的研究は評価できる。その研究成果を外部に影響を与えるよう、今後さらに研究成果の発表を期待する。		
			・学術雑誌等への掲載論文等数	3件以上	3件未満 2件以上	2件未満	A	A	A	A	A	A		
			・学会、研究会等での発表件数	2件以上	1件	0件	A	A	A	A	A	A		
エ 伝統楽器の変遷に関する資料収集			・目的・内容の適切性	定性的評価を記述し、委員の協議	A	A	A	A	A	A	A	A	限られた人員で日本の伝統楽器に関する基礎研究が着実	

		の保存のための指標となる研究報告書を作成する。			4件以上													
			・学会、研究会等での発表件数	5件以上	5件未満 4件以上	4件未満	A	A	A	A	A							
		オ 文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿復原に関して、専門的・技術的な援助・助言を行うため、設計及び施工に関する実践的な研究を実施する。	・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A						文化財研究所の適切な指導・助言により、第一次大極殿の復元事業は順調に進捗していると評価する。
			・学術雑誌等への掲載論文等数	1件以上			A	A	A	A	A							
			・学会、研究会等での発表件数	1件以上			A	A	A	A	A							
		カ 古代庭園に関する資料収集を行い、分析・検討の結果、報告書を作成する。また、これまでに蓄積してきた発掘庭園に関するデータベースを質、量の両面から充実させ、逐次公開する。	・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況 ・データベース内容充実状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A						古代庭園の解明に大きく貢献した。また、この分野の研究を大きく前進させたものであり、国際協力の観点からもその意義は十分に果たされている。
			・学術雑誌等への掲載論文等数	6件以上	6件未満 4件以上	4件未満	A	A	A	A	A							
			・学会、研究会等での発表件数	1件以上			A	A	A	A	A							
		キ 飛鳥地域の歴史に関する調査・研究を実施し、飛鳥地域の歴史を解明するとともに飛鳥資料館の展示を通して有効に活用する方法を検討する。	・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況 ・展示方法等の検討状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A						飛鳥地域の歴史に関する調査研究に大きな成果が上げられている。飛鳥資料館の展示の企画は、斬新であり、面白く、活用の仕方はいろいろと工夫と努力をされている。研究所の調査成果を基礎に飛鳥・藤原地域の歴史を展示するための資料館として、目的に沿った活性化を期待する。
			・学術雑誌等への掲載論文等数	3件以上	3件未満 2件以上	2件未満	A	A	A	A	A							
			・学会、研究会等での発表件数	4件以上	4件未満 3件以上	3件未満	A	A	A	A	A							
③ 寺院等が所蔵する歴史資料、書跡資料等の調査・記録・分析により、日本の歴史・文化の源流の解明を進め、本期間中に5カ所程度の調査・研究を行い、成果を得るよう努めること。	A	1- (1) - ③ 下記の古社寺所蔵の歴史資料・書跡資料等に関する原本調査及び記録作成等を行い、文獻の面から日本の歴史、文化の源流等の実態を探る。得られた成果により、報告書及びデータベースを作成する。 (調査対象) 興福寺、東大寺、薬師寺、法隆寺、西大寺	・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況 ・データベース内容充実状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A						興福寺、薬師寺、東大寺等の所蔵する文書など歴史資料の調査が行われたが、こうした奈良文化財研究所設立以来の基礎的調査・研究が地道に継続されていることは重要であるが、国立博物館との統合を踏まえ、国立博物館の社寺文書調査と重複しないよう業務の位置づけについて検討されたい。
			・学術雑誌等への掲載論文等数	2件以上	1件	0件	A	A	A	A	A							
			・学会、研究会等での発表件数	1件以上			A	A	A	A	A							
			・データベースへのデータ入力件数	700件以上	700件未満 560件以上	560件未満	A	A	A	A	A							
(2) 文化財の調査、保存、修復、整備活用に関する実践的な調査、研究の推進以下の課題に取り組み、文化財に関する基礎的な調査・研究を基に、文化財の調査・保存・修復・整備・活用に関する実践的な調査・研究を進め、その成果を文化財施策の向上に資するよう提供すること。	A						A	A	A	A	A	A						

<p>① 文化財の材料や技術的構造を明らかにし、それら文化財を生み出した文化的・歴史的背景の解明を進め、発掘調査の迅速化や美術品、出土品に関する科学的調査の発展を図ること。特に、遺構の科学分析等による遺跡調査法、年輪から年代や当時の気象を分析する年輪年代測定法及び動植物遺体を用いた環境分析法を開発すること。</p>	A	<p>1-(2)-① ア 発掘調査及びそれらに関連する作業の手法・技術の開発・改良に関する調査・研究を行い、遺跡発掘の迅速化を図るとともに、深層遺構探査法や官衙遺跡発掘調査法の開発を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目的・内容の適切性 調査・研究実施状況 深層遺構探査法の開発状況 官衙遺跡発掘調査法の開発状況 	<p>定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施</p>	<p>A A A A A A</p>	A	<p>奈良文化財研究所がこの分野で果たす役割はきわめて大きい。その役割を果たすとともにいくつもの実践的研究を進められたことは、高く評価できる。</p>
		<p>イ 年輪から建築や美術の年代測定、自然災害の発生の確認を行う年輪年代測定法を開発する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目的・内容の適切性 調査・研究実施状況 年輪年代測定法の開発状況 	<p>定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施</p>	<p>A A A A A A</p>	A	<p>年輪年代法測定法は、炭素14年代の精度的な指標としての意味を果たしており、測定迅速化、XCTの開発がなされ、また考古学・美術史への貢献は多大な成果を上げており著しい進展が評価できる。</p>
		<p>ウ 研究のための資料となる考古資料、出土品、動植物遺体等を全国各地から収集し、整理・分析することにより、遺物の分布状況、分類、編年及び当時の生活環境を解明する環境分析法を開発する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目的・内容の適切性 調査・研究実施状況 生活環境分析法の開発状況 	<p>定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施</p>	<p>A A A A A A</p>	A	<p>動植物遺体の同定による考古学や環境学への貢献はもとより、遺体計測により、漁撈技術の発展に関わる示唆に踏み込んだことは、さらなる今後に期待される。</p>
		<p>エ 保存科学及び考古学に関する国際会議の開催により、「考古学の総合的研究(COE)」のまとめを行い、研究報告書を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目的・内容の適切性 国際会議開催状況 調査・研究実施状況 	<p>定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施</p>	<p>A A - - -</p>	A	<p>考古学の中でも出土木製品の保存処理について最先端技術に係わる研究者を招き、討論ならびに交流を持たせたことは大きな成果の一つである。</p>
<p>② 科学的手法を用いた新たな保存修復技術・方法の開発を進め、特に、文化財の彩色材料の非破壊測定法、臭化メチル全廃に対応するための文化財の生物劣化防除法、屋外文化財(白幡磨崖仏・巖島神社)に対し環境が及ぼす影響とその技術的対策、大型木製品の保存処理法、有機質遺物の保存処</p>	A	<p>1-(2)-② ア 文化財の彩色材料に関する非破壊測定法の実用化のための基礎研究を行い、得られた成果により、報告書を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目的・内容の適切性 調査・研究実施状況 	<p>定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施</p>	<p>A A A A A A</p>	A	<p>デジタルアーカイブの一つの成果として精度の高い画像を得、研究に役立て、公開する手段と実践を果たしたこと、ポータブル蛍光X線装置の適用による美術史への製作技法、文学作品評価への応用など、著しい成果をあげたこと</p>

理法及び無機質遺物の非破壊構造調査法を開発すること。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学術雑誌等への掲載論文等数 ・学会、研究会等での発表件数 	2件以上 6件以上	1件 6件未満 4件未満 4件以上	0件	A A A A A A A A A A		は評価できる。
イ 臭化メチル燻蒸代替法及び殺菌・防カビ法の開発に関する研究を行い、得られた成果により報告書を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況 ・学術雑誌等への掲載論文等数 ・学会、研究会等での発表件数 	定期的評価を記述し、委員の協議により、評価を実施 1件以上 2件以上	1件 1件 0件	0件	A A A A A A A A A A	A	国際的な臭化メチルの代替手法の期限付き技術開発を行い、その普及に際して、最新の環境保全を基礎とした生物被害を防ぐIPMを絡ませてその定着を計り、その成果が出ていることは最も評価される。今後、如何に普及するかが課題。
ウ 文化財施設の保存環境に関する状況調査及び厳島神社や臼杵磨崖仏等の劣化調査と環境計測を行い、周辺環境が文化財に及ぼす影響について調査・研究を進め得られた成果により報告書を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況 ・学術雑誌等への掲載論文等数 ・学会、研究会等での発表件数 	定期的評価を記述し、委員の協議により、評価を実施 7件以上 8件以上	7件未満 5件以上 8件未満 6件以上	5件未満	A A A A A A A A A A	A	劣化要因解明とその影響を軽減する方法及び修復材料・技法の開発・評価の試みなど、研究は着実に前進したものと評価できる。自然界における文化財の保存問題はファクターと条件が多様であって、なかなか解決が難しい。しかし最も大きな課題であって、地味ではあるが長期的な展望の基により一層の充実した体制を期待したい。 また、今後、その成果の有効な活用方策の検討が必要。
エ 大型木製品の劣化、有機質遺物の材質分析、無機質遺物の非破壊構造調査に関する研究を行い、それぞれの保存処理法及び調査法を開発する。	<ul style="list-style-type: none"> ・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況 ・保存処理法の開発状況 ・調査法の開発状況 ・学術雑誌等への掲載論文数 ・学会、研究会等での発表件数 	定期的評価を記述し、委員の協議により、評価を実施 11件以上 7件以上	11件未満 8件以上 7件未満 5件以上	8件未満	A A A A A A A A A A	A	真空凍結乾燥法による保存処理上困難とされる樹種の製品に対する成果と実用化は評価される。 併せて、果敢に有機質遺物の分析法ならびに新しい保存処理法に取り組み、その成果が出てきている。より一層、今後を期待する。
オ 古瀬などの伝統的な修復材料の素材の物性の解明を行い、文化財修復の新たな素材と技法の開発研究を行うとともに、レーザーによる文化財クリーニング法の開発のための研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況 ・文化財修復素材・技法の開発状況 ・文化財クリーニング法の開発状況 ・学術雑誌等への掲載論文等数 ・学会、研究会等での発表件数 	定期的評価を記述し、委員の協議により、評価を実施 2件以上 1件以上	1件 0件	0件	A A A A A A A A A A	A	従来の伝統技術の材料の古瀬の分析からその性質を把握できたことは画期的なことである。さらにそれをベースにして新しく古瀬にあたるものを製造でき、その上により発展的な使用が期待される段階に至ったことは過去には無い例であろう。実際現場でのさらなる評価が期待される。

		カ 古代遺跡の保存科学的な研究を行い、保存修復指針及びデータベースを作成・公開する。	<ul style="list-style-type: none"> 目的・内容の適切性 調査・研究実施状況 保存修復指針の作成・公開状況 	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	A	官衙遺跡の整備状況および遺跡の斜面保護に関する写真・図面等のデータを奈良文化財研究所のホームページ上に公開し、各地の整備事業担当者をはじめ広く一般からの閲覧が可能としたことを評価する。更なるデータの蓄積を期待する。
		キ 近代の文化遺産の保存修復に関する研究を行い、得られた成果により報告書を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 目的・内容の適切性 調査・研究実施状況 	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	A	あらゆる分野にわたり、材質も多様であり、自然界に存在するものも多い。精力的な調査と保存処理法への着手、海外からの情報収集にも取り組んでいることは高く評価できる。今後、どのような形で実施に移してゆくかの検討を期待する。
		キ 近代の文化遺産の保存修復に関する研究を行い、得られた成果により報告書を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 学会、研究会等での発表件数 	2件以上	1件	0件	A	A	A	A	A	
		キ 近代の文化遺産の保存修復に関する研究を行い、得られた成果により報告書を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 調査・研究報告書等刊行数 	1件以上			A	A	A	A	A	
③ 国民に親しまれる遺跡の公開・展示の在り方と保存方法の開発を進めること。特に、遺跡の露出展示法を開発すること。	A	1-(2)-③ ア 平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査・研究を行い、「宮跡整備構想」に基づく具体的整備方針を再検討するとともに、全国各地の大規模な遺跡の整備及び管理状況について、情報収集を行い、調査・分析の結果について報告書を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 目的・内容の適切性 調査・研究実施状況 	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	A	平城宮、藤原宮などの整備・公開・活用法の研究は、全国各地の遺跡保存のあり方に一つの手本を示すものとして大きな期待が寄せられている。平城宮第一次大極殿地区の復元整備事業が進む中でその果たす役割は大きく、研究所の存在意義が問われる研究といえる。そうした期待に答える研究が進められたことを高く評価する。
		イ 出土遺構及び遺物の公開・活用に資するため、遺跡の公開のための新たな保存法として、遺跡の露出展示法を開発する。	<ul style="list-style-type: none"> 目的・内容の適切性 調査・研究実施状況 遺跡露出展示法の開発状況 	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	A	研究所の長期的な基礎研究であるが、最終年度に調査手法として多種類の測定法の適応性を試みていることは評価できる。
		イ 出土遺構及び遺物の公開・活用に資するため、遺跡の公開のための新たな保存法として、遺跡の露出展示法を開発する。	<ul style="list-style-type: none"> 学術雑誌等への掲載論文等数 	1件以上		0件	A	A	A	A	A	
		イ 出土遺構及び遺物の公開・活用に資するため、遺跡の公開のための新たな保存法として、遺跡の露出展示法を開発する。	<ul style="list-style-type: none"> 学会、研究会等での発表件数 	1件以上		0件	A	A	A	A	A	
(3) 文化財に係る調査・研究に関する国際交流・協力等の推進 文化財の調査・保存・修復に関する国際機関、諸外国との調査・研究協力、情報交換、専門家の養成支援等を積極的に実施することにより、文化財に関する国際交流を推進すること。また、外国の文化財保存修復に関する技術的指導・援助等を行うことにより、文化財に関する国際貢献・協力を	A	1-(3)-① ア 諸外国の文化財の保護制度に関する調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> 目的・内容の適切性 調査・研究実施状況 	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	A	本件を研究テーマに挙げたことは文化財の保護・活用、さらには倫理を考える上で機を得たものである。保護の実態のみならず、活用の実態も大いに報告して欲しい。
		イ 東南アジアの文化財を取り巻く自然環境とレンガ等材料の劣化原因に関する共同研究	<ul style="list-style-type: none"> 目的・内容の適切性 調査・研究実施状況 	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	A	自然界における遺跡(遺物)保存において考えられる要因が著しく多い中において、その原因の一つと保存の手法が

推進すること。
さらに、大学、研究機関等関係機関との共同調査・研究、研究者交流等を積極的に推進し、調査・研究の質の向上を図ること。

	・学術雑誌等への掲載論文等数	2件以上	1件	0件	A	A	A	A	A		見えてきたことは大きな成果であり、今後の応用と経年変化の結果に期待する。
	・学会、研究会等での発表件数	3件以上	3件未満 2件以上	2件未満	A	A	A	A	A		
ウ 中国及び中南米諸国との文化財の保存修復に関する調査・研究と技術移転・人材育成の実施	・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A	莫高窟ならびにイースター島のモアイの保存上の調査、保存処理は国際的にも高く評価できる。 今後の経年変化の結果に期待する。
	・学術雑誌等への掲載論文等数	2件以上	1件	0件	A	A	A	A	A		
	・学会、研究会等での発表件数	3件以上	3件未満 2件以上	2件未満	A	A	A	A	A		
エ 地理情報システムを利用した文化財の防災計画に関する共同研究	・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			-	-	A	A	A	A	機を得た研究であり高く評価する。この分野の将来に期待する。
オ 在外日本古美術品修復についての諸外国の博物館・美術館との協力事業及び研究機関・専門家との学術交流	・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A	日本文化の継承のため、かつ日本の保存修復技術者の国際的な活躍の場であると同時に日本文化を広げるまたとない機会である。研究所として大変重要な仕事であり、今後も成果を期待する。
	・事業件数	2件以上	1件	0件	A	A	A	A	A		
	・修復件数	5件以上	5件未満 4件以上	4件未満	A	A	A	A	A		
カ 環境による不動産文化財の劣化状況調査と保存修復に関する調査・研究	・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A	各地での活動は、国際的に大きな意味を持ち、現在もであるが、将来に向けて国際的な中で日本の技術の在り方を評価する良い機会と考えられる。今後も期待する。
	・学術雑誌等への掲載論文等数	1件以上			A	A	A	A	A		
	・学会、研究会等での発表件数	1件以上			A	A	A	A	A		
キ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、古代庭園及び陶磁器に関する調査研究及び研究協力	・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A	研究活動としてのみならず、日中、日韓の研究交流が着実に進行しており、評価できる。
	・学術雑誌等への掲載論文等数	5件以上	5件未満 4件以上	4件未満	A	A	A	A	A		
	・学会、研究会等での発表件数	2件以上	1件	0件	A	A	A	A	A		
1-(3)-② ア 文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）と共同で国際修復研修事業を実施する。	・研修実施実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A	装こう関係、漆工芸品については、国際的に最も評価されており、また、装こう師、塗師の方々による研修、ならびにエクスカージョンは最も効果があることと評価する。
	・受講者数	8人以上	8人未満 6人以上	6人未満	A	A	A	A	A		
	・受講者の満足度	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	A	A	A	A	A		

	・アンケート結果の研修内容・方法充実への反映状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A		
イ 文化財の保存・修復に関する国際シンポジウムを実施する。	・シンポジウム開催状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	日本の文化財保護に関する中核的研究機関として、どうしても必要な事業であり、適切に進められているものと判断される。 また、諸外国との学術的交流はもとより、情報交換の機会としても有意義であったと評価する。
	・参加者数	170人以上 170人未満 140人以上	C	A	A	A	A	A	
	・参加者の満足度	80%以上 80%未満 64%以上	A	A	A	A	A	A	
ウ アジア文化財保存セミナーを実施する。	・セミナー開催状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	文化財保護に関する国際研究交流の推進の一環として重要な事業である。各国1名と人数は少ないが充実したセミナーである。
	・参加者数	10人以上 10人未満 8人以上	A	A	A	A	A	A	
	・参加者の満足度	80%以上 80%未満 64%以上	A	A	A	A	A	A	
エ 国際文化財保存修復研究会を実施する。	・研究会開催状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	「文化的景観の成立、その変遷」「文化遺産の公開・活用と保存環境」など、まさに時機にかなった事業であり、文化財保護に関する国際貢献としてその成果が期待される。
	・参加者数	100人以上 100人未満 80人以上	A	A	A	A	A	A	
	・参加者の満足度	80%以上 80%未満 64%以上	A	A	A	A	A	A	
オ 国際協力事業団、ユネスコアジア文化センター文化遺産保護協力事務所等が実施する研修への協力を行う。	・研修への協力状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	文化財保護に関する国際研究交流の推進の一環として重要であり、適切に進められたものと評価できる。
1-(3)-③ 職員を外国に派遣し、文化財保存修復に関する指導・助言・協力	・指導・助言・協力状況 ・研究交流実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	アフガニスタン・イラクなどにおけるいち早い対応とその成果は高く評価できる。

		及び国際研究交流を実施する。	・職員派遣数	9人以上	9人未満 7人以上	7人未満	A	A	A	A	A		
		1-(3)-④ 国内においても文化財の保存科学等の分野において、各種研究機関・民間企業等との共同で調査・研究を行う。	・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A	文化財研究所ならではの仕事として、意欲的に取り組まれていることは評価できる。
		1-(3)-⑤ 外部機関等からの求めに応じて、文化財の保存・修復に関する実践的研究を実施する。	・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A	全国からの依頼が多く大変だと思われるが、積極的に多くの受託研究を受け入れ、また他機関の要請を受けて保存修復に関する実践的研究を実施したことは高く評価できる。今後、より一層広い開口を設けられることを期待する。
		1-(3)-⑥ 地方公共団体との共同による発掘調査を実施する。	・目的・内容の適切性 ・調査・研究実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			-	-	-	-	-	-	
2 調査・研究に基づく資料の作成・公表 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、速やかに報告書を作成し、適切な時期・方法により積極的に公表すること。その際、文化財研究者等だけでなく、多くの国民が容易に研究成果を入手できるよう、情報通信技術の活用や再現模型・複製品の作成等多様な手法を用いて、資料の作成・公表を推進すること。なお、刊行物等の発行及び黒田記念館、飛鳥資料館、平城官跡資料館、飛鳥藤原宮跡発掘調査部展示室の入館者数は、毎年度平均で平成12年度の実績以上を確保するよう努めること。	A	2 調査・研究に基づく資料の作成・公表 2-① ア 研究報告書、年報、研究論文集、図録等を12年度の実績以上刊行する。	・内容の充実状況 ・刊行の適時性	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	A	A	いずれも優れた調査・研究報告書等が刊行され、きわめて活発な出版活動が行われたことを高く評価する。今後、成果の公表や発表による反響の検証し、更なる向上に期待する。
			・定期刊行物刊行数	4件以上	4件未満 3件以上	3件未満	A	A	A	A	A	A	
			・年報刊行数	2件以上	1件	0件	A	A	A	A	A	A	
			・研究報告書・研究論文集刊行数	16件以上	16件未満 12件以上	12件未満	A	A	A	A	A	A	
			・図録刊行数	3件以上	3件未満 2件以上	2件未満	A	A	A	A	A	A	
			・ニュースの刊行数	5件以上	5件未満 4件以上	4件未満	A	A	A	A	A	A	
			・新聞、雑誌等への寄稿及び資料提供数	200件以上	200件未満 160件以上	160件未満	A	A	A	A	A	A	
		イ 14年度に奈良文化財研究所の創立50周年事業としてこれまでの研究成果を総括し、特別展示・	・特別展示実施状況 ・出版物刊行状況 ・国際シンポジウム開催状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			-	A	-	-	-	A	奈良文化財研究所創立50周年記念の「飛鳥・藤原京展」の開催は、最近の文化財研究所の研究成果を展示の形で世

出版事業を行い、国際シンポジウムを開催するとともに、巡回展を開催する。	・巡回展開催状況									に問うたものであり、高く評価する。また、記念論文集「文化財論表Ⅲ」も考古学研究の進展に寄与することが大きい。	
ウ 公開学術講座、公開講演会、現地説明会を開催する。	・公開学術講座開催状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			B	A	A	A	A	A	国民への情報提供とサービスの機会として重要な活動であり、着実に成果をあげ、それなりのファンも獲得しているようである。高度な内容の学術会議や講座が行われているが、その成果の普及について更なる工夫を期待する。
	・参加者数	390人以上	390人未満 310人以上	310人未満	A	A	A	A	A	A	
	・参加者の満足度	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	A	A	A	A	A	A	
	・公開講演会開催状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			B	A	A	A	A	A	積極的に研究成果・調査成果の講演会・報告会などが実施され、開催回数、参加者数や満足度は目標値を達成しており、多くの聴衆に大きな満足を与えたことを評価する。芸術部の公開講座は歴史があるが、今後、新しい工夫を期待する。
	・参加者数	350人以上	350人未満 280人以上	280人未満	A	A	A	A	A	A	
	・参加者の満足度	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	A	A	A	A	A	A	
エ 調査・研究の成果としてのデータベースを順次公開する。	・現地説明会開催状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A	考古の現地説明会には、大変多くの参加者が集まり評価できる。
	・参加者数	3,000人以上	3,000人未満 2,400人以上	2,400人未満	B	A	A	A	A	A	
	・参加者満足度	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	A	A	A	A	A	A	
	・データベースの公開状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			B	A	A	A	A	A	意欲的にデータベースの構築が行われ、非常に多くのアクセスを得ており評価できる。また、研究所の活動の広報手段としても重要であり、多言語化も重要な方策である。今後とも、利用度に留意

オ 黒田記念館、飛鳥資料館、平城宮跡資料館、飛鳥藤原宮跡発掘調査部展示室における展示・公開を充実させ、入館者数を12年度の実績以上確保するよう努める。	・黒田記念館展示・公開充実状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			B	A	A	A	A	A	A	し、力を入れて欲しい。 積極的に館内の改修を行って黒田清輝の作品約50点の展示を可能にし、土曜日の公開、バリアフリー化、地方巡回展の開催、絵はがき売店の設置など、公開成果を上げるための努力がはられていいことは評価できる。 今後、国立博物館との統合を踏まえ、より一層の有効利用が図られるシステムの構築に期待する。
	・入館者数	3,500人以上	3,500人未満 2,800人以上	2,800人未満	C	A	A	A	A			
	・入館者の満足度	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	A	A	A	A	A			
	・アンケート結果の展示・公開充実への反映状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施										
・飛鳥資料館展示・公開充実状況	・飛鳥資料館展示・公開充実状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			B	B	B	B	B	B	B	常設展だけでなく、いろいろな企画が継続して行われている。研究成果の速報性や、見学者の満足度が高いことは評価できる。 入館者数の増加が望めないのは、周辺環境の変化など、不可抗力という要素もあるが、更なる努力を期待する。
	・入館者数	94,000人以上	94,000人未満 75,000人以上	75,000人未満	C	C	C	C	C			
	・入館者の満足度	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	A	A	A	A	A			
	・アンケート結果の展示・公開充実への反映状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施										
・平城宮跡資料館展示・公開充実状況	・平城宮跡資料館展示・公開充実状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	B	A	A	B	A	A	常設展を通年実施したほか、発掘速報展の開催など観覧者の理解を深めるための努力が行われたことを評価する。これから重要な意味を持つ施設であり、更なる努力を期待する。
	・入館者数	75,500人以上	75,500人未満 60,000人以上	60,000人未満	A	B	B	B	B			
	・入館者の満足度	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	A	A	A	A	A			
	・アンケート結果の展示・公開充実への反映状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施										
・飛鳥藤原宮跡発掘調査部展示室展示・公	・飛鳥藤原宮跡発掘調査部展示室展示・公	定性的評価を記述し、委員の協議			A	A	A	A	A	A	A	入館者数、満足度が目標値を達成しており、着実に成果

	<p>開充実状況</p> <p>・入館者数</p> <p>・入館者の満足度</p> <p>・アンケート結果の展示・公開充実への反映状況</p>	<p>により、評定を実施</p> <p>3,400人以上</p> <p>3,400人未満 2,700人以上</p> <p>2,700人未満</p> <p>80%以上</p> <p>80%未満 64%以上</p> <p>定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>		<p>をあげてきた。</p>
<p>カ 研究成果の公表の結果に関して、適宜アンケート調査等を実施し、常に国民の評価を得るよう努める。</p>	<p>・アンケート等の実施状況</p> <p>・アンケート調査等実施回数</p> <p>・国民の評価（満足度）</p> <p>・アンケート結果の研究成果公表充実への反映状況</p>	<p>定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施</p> <p>14回以上</p> <p>14回未満 11回以上</p> <p>11回未満</p> <p>80%以上</p> <p>80%未満 64%以上</p> <p>定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>A</p>	<p>積極的にアンケートが実施されていることは評価できる。アンケートの結果をより積極的に生かすためにも、その内容について一層の工夫が求められる。</p>
<p>2-② 以下の協議会等を開催し、研究成果の質の向上を図る。 ア 民俗芸能研究協議会</p>	<p>・開催状況</p> <p>・参加者数</p> <p>・参加者の満足度</p>	<p>定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施</p> <p>90人以上</p> <p>90人未満 70人以上</p> <p>70人未満</p> <p>80%以上</p> <p>80%未満 64%以上</p> <p>64%未満</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>A</p>	
<p>イ 文化財保存修復研究協議会</p>	<p>・開催状況</p> <p>・参加者数</p>	<p>定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施</p> <p>50人以上</p> <p>50人未満 40人以上</p> <p>40人未満</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>A</p>	<p>高松塚・キトラ古墳の壁面の保存が問題になっている現状からも、こうした国際的な協議会の開催は高く評価できる。</p>

			・参加者の満足度	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	A	A	A	A	A		
		ウ 近代の文化遺産の保存研究会	・開催状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	B	A	近代化遺産の保存・活用策を探る上からも、こうした国際的な協議会の開催は評価できる。
			・参加者数	50人以上	50人未満 40人以上	40人未満	A	A	A	A	C		
			・参加者の満足度	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	A	A	A	A	A		
		エ 保存科学研究集会	・開催状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A	計画に沿って着実に成果を挙げている。 今後も、研究水準を維持しつつ、テーマによっては可能な範囲でオープンな集会を行うなどの工夫にも期待する。
			・参加者数	100人以上	100人未満 80人以上	80人未満	C	A	A	A	A		
			・参加者の満足度	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	-	A	A	A	A		
		オ 在外日本古美術品修復技術研究会	・開催状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A	参加者の満足度は目標値を達成しており、計画に沿って着実に成果をあげている。
			・参加者の満足度	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	A	A	A	A	A		
3 文化財に関する情報・資料の収集・整理・提供 文化財に関する情報・資料を計画的に収集・整理し、積極的に公開・提供すること。その際、多くの国民が文化財に関する情報・資料に容易に接することができるよう、情報通信技術を活用して情報提供を行うなど、多様な手法を用いて、情報・資料の収集・整理・提供を推進すること。なお、情	A	3 文化財に関する情報・資料の収集・整理・提供 3-① ア 毎年、前年度実績を上回るよう文化財関係の資料・図書の収集・整理・公開・提供を充実する。	・資料・図書の収集・整理・公開・提供状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A	資料・図書の受入数、目録所在情報作成件数、資料閲覧室等の利用者数は、全て目標値を達成しており評価できる。 今後、より一層の利用者増と、文化財研究の資料センターとして、高い目標を持って系統的に資料や文献を収集することに期待する。
			・資料・図書の受入数	11,000件以上	11,000件未満 8,800件以上	8,800件未満	A	A	A	A	A		
			・目録所在情報作成件数	11,000件	11,000件	8,800件	A	A	A	A	A		

報・資料の収集及びホームページのアクセス件数は毎年度平均で平成12年度の実績以上を達成すること。				以上	未満 8,800件 以上	未満											また、もっと多くの外部者が閲覧できるようなシステムの構築を期待する。
			・資料閲覧室等の利用者数	380人 以上	380人 未満 300人 以上	300人 未満	A	A	A	A	A						
	イ これまでの実績や蓄積したデータを活用し、文化財関係資料等に関するデータベースの作成を継続・充実し、順次公開する。		・データベースの充実及び公開状況		定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A					A
		・データベース作成数	17種類以上	17種類未満 13種類以上	13種類未満		A	A	A	A	A						
	3-② 文化財情報の電子化及びシステムの構築に関する研究の成果を活かし文化財情報基地としての基盤を整備・充実する。それにより、国民に対して円滑な情報提供を行う。また、同研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を毎年度平均で12年度実績以上を確保する。		・研究実施状況 ・文化財情報基盤の整備・充実状況 ・情報提供実施状況 ・ホームページ充実状況		定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施		A	A	A	A	A					A	毎年度、目標値を大きく超えるアクセス件数は評価できる。例えば、雑誌「保存科学」、木簡に関するデータの電子化などは非常に便利であり、高く評価できる。
		・ホームページアクセス件数	360,000件 以上	360,000件未満 288,000件以上	288,000件未満		A	A	A	A	A						
4 文化財に関する研修等 文化財の保存、活用を推進し、国民に対するサービスの向上を図るため、地方公共団体、博物館、美術館等関係機関の職員の資質向上を目的とする研修等を計画的に実施すること。なお、文化財研究所が主催する研修事業に参加した者のうち、平均80%以上の者から「有意義だった」、「役に立った」と回答してもらえるよう研修内容の充実を図ること。 また、連携大学院制度により大学院生を積極的に受入れるなど、文化財の保存・活用を支える人材の養成・確保に努めること。	A	4 文化財に関する研修等 4-① ア 埋蔵文化財発掘技術者等研修年14回(種類)、のべ200名程度に対し研修を実施する。	・研修の内容・方法の適切性		定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施		A	A	A	A	A					A	奈良文化財研究所の埋蔵文化財発掘技術者等研修会は、日本の埋蔵文化財調査水準の向上に大きな役割を果たしており、今後とも継続されるべき事業である。
		・研修実施回数	14回 以上	14回未満 11回以上	11回未満		A	A	A	A	A						
		・受講者数	200人 以上	200人未満 160人以上	160人未満		A	A	B	B	A						
		・受講者の満足度	80% 以上	80%未満 64%以上	64%未満		A	A	A	A	A						

				以上									
			・アンケート結果の研修内容・方法への反映状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施									
			・受講生の再教育等フォローアップ状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施									
		イ 博物館・美術館等の保存担当学芸員研修 年1回、25名程度に対して研修を実施する。	・研修の内容・方法の適切性	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	A		東京文化財研究所の博物館・美術館等の保存担当学芸員研修は、他の機関ではできない分野であり、日本の博物館・美術館の資料保存水準の向上に大きな役割を果たしており、今後とも継続されるべき事業である。
			・研修実施回数	1回以上	A	A	A	A	A	A			
			・受講者数	25人 25人未満 22人 以上	22人 未満 22人 以上	22人 未満	B	A	A	A	A		
			・受講者の満足度	80% 80%未満 64% 以上	64% 未満 64% 以上	64% 未満	A	A	A	A	A		
			・アンケート結果の研修内容・方法への反映状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施									
			・受講生の再教育等フォローアップ状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施									
		4-②	・連携大学院教育実施状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	A		文化財研究所のすぐれた研究成果やそのノウハウを研究者養成に役立てることに大きな意義があり、今後とも継続されるべき事業であろう。
		ア 東京芸術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を推進する。	・受入学生数	6人以上 6人未満 4人以上	4人未満		A	A	A	A	A		
		イ 東京と奈良において各々年間10名程度の博物館学実習生の受入れを行う。	・博物館学実習生受入状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を決定	A	A	B	A	A	A	A		文化財研究所が博物館学実習生を受け入れることは、学生にとっては大きな魅力であった。実習生の満足度が高く評価できるが、他の機関での実施が可能であり、今後は文化財研究所で行う必要はなからう。
			・実習生数	20人 20人未満 16人 以上	16人 未満		B	A	C	A	B		
			・実習生の満足度	80% 80%未満 64% 以上	64% 未満 64% 以上	64% 未満	A	A	A	A	A		
5	文化財の調査・保存・修復・整備・活	A	5	文化財の調査・保存・修復・整備	・援助・助言の実施状況	定性的評価を記述し、委員の協	A	A	A	A	A	A	文化庁が行う各種の事業に専門的・技術的な援助を行う

<p>用に関する援助・助言</p> <p>調査・研究の成果を活用し、国・地方公共団体等に対して、文化財の調査・保存・修復・整備・活用に関する専門的・技術的な援助・助言を積極的に実施することにより文化財保護の質の向上を図ること。</p>		<p>・活用に関する援助・助言</p> <p>5-① 文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に対する専門的・技術的な援助・助言</p> <p>5-② 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業等に対する専門的・技術的な援助・助言</p> <p>5-③ 地方公共団体等が設置する文化財の収蔵・公開施設に対する専門的・技術的な援助・助言</p>	<p>・援助・助言実施件数</p> <p>40件 40件 未満 32件 以上</p> <p>・援助・助言の実施状況</p> <p>・援助・助言実施件数</p> <p>410件 410件 未満 330件 以上</p> <p>・援助・助言の実施状況</p> <p>・援助・助言実施件数</p> <p>170件 170件 未満 140件 以上</p>	<p>議により、評定を実施</p> <p>A A A A A</p> <p>A A A A A</p> <p>A A A A A</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>ことは、文化財研究所の設置目的からも当然であり、大きな役割を果たしていることを高く評価する。</p> <p>地方公共団体等が行う事業について、考古関係だけでなく芸術部など幅広く、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、援助・助言実施件数も目標値を達成している。本事業は、文化財研究所の設置目的からも当然であり、研究所の大きな役割を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>地方公共団体が設置する博物館等の保存環境の調査や資料保存法について指導を行うことは、文化財研究所の設置目的からも当然であり、研究所が大きな役割を果たしていることは高く評価できる。</p>
<p>6 前各項の業務に附帯する業務</p> <p>(1) 国の文化財に関する公開・活用事業を促進するため、文化財研究所の業務に密接な関係を有する遺跡地の公開・活用に協力・支援すること。</p>	A	<p>6 前各項の業務に附帯する業務</p> <p>6-(1) 平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力・積極的支援を実施する。また、文化庁平城宮跡等管理事務所の運営に積極的に協力する。</p>	<p>・協力・支援状況</p> <p>・維持管理実施状況</p>	<p>定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施</p> <p>A A A A A</p>	<p>A</p> <p>平城宮、飛鳥・藤原宮などの公開・活用事業への協力・支援について、文化財研究所が努力していることは高く評価できる。</p>
<p>(2) 平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡等の解説、環境保全等を行うボランティア活動を積極的に支援し、ボランティアの文化財に対する学習需要にも適切に対応するとともに、毎年度平均で平成12年度実績以上のボランティアの確保を図り、来訪者に対するサービスを充実すること。</p>	A	<p>6-(2)</p> <p>①解説ボランティア事業を運営する。</p>	<p>・ボランティア活動状況</p> <p>・ボランティア登録者数</p> <p>・事業参加者数</p>	<p>定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施</p> <p>100人 100人 未満 80人 以上</p> <p>45,000人 45,000人 未満 36,000人 以上</p> <p>A A A A A</p> <p>B A A A A</p> <p>A A A A A</p>	<p>A</p> <p>平城宮の見学者に対する解説ボランティアが大きな役割を果たしている。また、その運営や研修事業は適切に実施されており高く評価できる。</p>

		・参加者の満足度	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	A	A	B	A	A			
②各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等の支援を行う。	・ボランティア支援状況	定期的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施				A	A	A	A	A	A	A	各種ボランティア団体への活動場所の提供、またその学習活動への援助など適切に行われており、評価できる。
		・ボランティアに対する学習会実施回数	2回以上	1回	0回	A	A	A	A	A			
		・参加者数	150人以上	150人未満 120人以上	120人未満	A	A	A	A	A			
		・参加者の満足度	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	A	A	A	A	A			
③ミュージアムショップを委託により運営する。	・運営状況	定期的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施				A	A	A	A	A	A	適切に行われているものと評価できる。特に、図録が売れていることは大変喜ばしい。	
		・ミュージアムショップの利用状況	1,700人以上	1,700人未満 1,400人以上	1,400人未満	A	A	A	A	A			
④平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等への来訪者に対する満足度を調査し、サービス充実の目安とする。	・サービスの充実状況	定期的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施				A	A	A	A	A	A	適切に行われているものと判断され、アンケート結果は高い満足度を得ているが、来訪者からの回収率が低いので、アンケート結果に満足してはならないと思われる。また、アンケートの回収率向上に努められたい。	
		・来訪者の満足度	80%以上	80%未満 64%以上	64%未満	A	A	A	A	A			

○ 財務内容の改善に関する事項

中期目標	中期目標 段階的評定	中期計画	指標又は評価項目	評価基準			事業年度段階的評価結果					中期計画 段階的評定	中期目標評定 定性的評価	
				A	B	C	13	14	15	16	17			
IV 財務内容の改善に関する事項 自己収入の確保、予算の効率的な執行に努め、適切な財務内容の実現を図ること。 (1) 積極的に外部研究資金、施設使用料等、自己収入の増加に努めること。また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。 (2) 固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。	A	○ 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画 収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。 また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。 (1) 予算 (2) 収支計画 (3) 資金計画	①決算報告書の区分による予算の執行状況 ②運営費交付金の収益化に関する状況 ③外部研究資金、施設使用料等自己収入の増加状況 ④固定的経費の節減状況 ⑤選付消費税を財源とする流動資産の使用状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	A	A	A	A	A	A	A	A	運営費交付金の収益化は、経費の性格により成果進型基準、機関進型基準、費用進型を適用している。中期計画最終年度には、繰越債務を含め交付額は全て収益化された。 運営費交付金を充当して行う業務の効率化は、平成13年度に2.92%、14年度に3.07%、15年度に2.90%、16年度に1.63%、そして、今年度1.96%を達成したことは高く評価できる。 選付消費税を財源とする流動資産の使用状況については、平氏絵18年12月に竣工予定の「飛鳥藤原官跡発掘調査部（都城発掘調査部）第二収蔵庫増築工事」及び「飛鳥資料館展示室増築工事」（いずれも平成17年度に契約）が竣工後、その工事費に充当する予定である。	
		○ 短期借入金の限度額 短期借入金の限度額は、6億円。 短期借入が想定される理由は、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。	・短期借入金の借入状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		○ 剰余金の使途 決算において剰余金が発生した場合は、調査・研究、出版事業及び国民に対するサービスの向上に必要な展示施設・設備の整備等に充てる。	・剰余金の使用等の状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施	-	A	A	A	A	A	A	A	A	A

○ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

中期目標	中期目標 段階的評定	中期計画	指標又は評価項目	評価基準			事業年度段階的評価結果					中期計画 段階的評定	中期目標評定 定性的評価	
				A	B	C	13	14	15	16	17			
V その他業務運営に関する重要事項 1 人事管理(定員管理、給与管理、意識改革等)、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図ること。	A	1 人事に関する計画 (1) 方針 ① 職員の適正な配置と計画的	・人事管理の状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A	A	全体として概ね適切に運営されているものと評価できる。今後は、国立博物館との統合を踏まえ、必要な箇所への積極的な人事配置が必要と思われる。
2 長期的な展望のもとに施設・設備整備計画を作成し、整備を推進すること。	A	2 施設・設備の整備を計画的に推進する。	・施設、設備の整備状況	定性的評価を記述し、委員の協議により、評定を実施			A	A	A	A	A	A	A	奈良文化財研究所の本庁舎の新築は、早急の課題である。その折には、これまでと違った、全国民に開かれた新しいタイプの研究所を模索して欲しい。